鳥取県地域医療支援センター 広報誌

DOCトリ!

鳥取の地域医療を考えるマガジン　ードクトリ！ー

vol. 13
2025 / Summer

特集1　鳥取大学地域医療学講座開設15年記念企画
What an interesting
地域医療教育!

特集2　鳥取県で医師のキャリアを築く!
私のキャリア紹介
～専門研修プログラム基本領域別～ vol.3 精神科・外科編

DOCトリ!
第13号　2025年8月発行　鳥取県地域医療支援センター

※本誌掲載の写真、図版、記事などの無断転載を禁じます。

令和8年度鳥取大学医学部医学科に新しい地域枠が追加されます

鳥取大学と鳥取県は、卒業後一定の期間、県内の病院等で勤務することを条件とする「地域枠」を入学定員に設け、地域枠の医学生に対して在学中に「医師確保奨学金」を貸与し、所定期間の県内病院等勤務で返還を免除しています。

令和8年度入試では、新たな地域枠「とっとり医療人養成枠」が新設され、地域枠の募集定員が増員されました。チームDOCトリ!の一員として、とっとりの地域医療を担ってくださる皆さんの受験をお待ちしています!

医師確保奨学金等制度の詳細はこちら

			募集人数	対象者・卒後の従事要件等
一般入試（前期日程）（出願時期：令和8年1月下旬）	併願も可能です!	NEW! とっとり医療人養成枠（地域医療強化医師確保奨学金）	7人以内	対象者：出身地、卒業年度、高校の所在地を問わない 卒後要件：卒後、鳥大病院管理の臨床研修後、鳥大病院を基幹施設とする専門研修等に4年間勤務 月額：12万円
		臨時養成枠（臨時特例医師確保対策奨学金）	11人（予定）	対象者：出身地、卒業年度、高校の所在地を問わない 卒後要件：卒後12年以内に知事指定県内医療機関に9年間（うち4年間は知事指定区域）で勤務 月額：15万円
推薦入試（出願時期：令和7年11月上旬）		地域枠（医師養成確保奨学金）	5人以内	対象者：県内高校卒業（見込）者に限る（2浪まで） 卒後要件：卒後11年以内に知事指定県内医療機関に6年間勤務 月額：12万円
		特別養成枠（緊急医師確保対策奨学金）	6人（予定）	対象者：・県内高校卒業（見込）者（2浪まで） ・県外高校卒業（見込）者（2浪まで）で鳥取県に縁のある者（本人・保護者等の出生地・本籍地・現住所地等が鳥取県内であること等） 卒後要件：卒後県職員として9年間知事が勤務を命じる県内医療機関に勤務 月額：15万円

入学試験については、鳥取大学にお問い合わせください。

鳥取県地域医療支援センターについて

鳥取県地域医療支援センターは、鳥取県・鳥取大学医学部附属病院が連携し、鳥取県の地域医療の充実・発展のために2013（平成25）年1月に設置されました。私たちは、鳥取県の医師不足解消のために、地域枠などの医師のキャリア形成支援や医師の地域偏在解消に取り組んでいます。専任医師も勤務しており、皆さまのご相談などを伺っています。

ご相談やお問い合わせはこちらまで

鳥取県の医療・奨学金制度に関すること
鳥取県福祉保健部 健康医療局 医療政策課
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857-26-7195　FAX 0857-21-3048

医師のキャリア形成・相談に関すること
鳥取大学医学部附属病院 鳥取県地域医療支援センター
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1
TEL 0859-38-7005　FAX 0859-38-7006

とっとりドクター Naviのご登録を受付中!

鳥取県の地域医療に関心をお持ちの全国の高校生・医学生・研修医の皆さまに役立つ県内の医療情報や勤務に関する情報、医師としてのスキルアップに関する情報として、「DOCトリ!」やメールマガジンをお届けします。どなたでもご登録いただけます。

とっとりドクター Navi

登録申込フォーム ▸▸▸
https://www.pref.tottori.lg.jp/273080.htm

※なお、ご登録情報の変更についても、登録申込フォームで承っております。

広報誌名『DOCトリ！』の由来

「DOCTOR」と「鳥取県」を合わせた造語です。医師の皆さんに、鳥取県で活躍してほしいという願いが込められています。

編集発行　鳥取県地域医療支援センター
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1（鳥取大学医学部附属病院内）
TEL 0859-38-7005　FAX 0859-38-7006
Eメール：t-chiikicen@med.tottori-u.ac.jp
Webサイト：https://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/t-chiikicen/

□ 制作／有限会社キーワード　〒680-0051 鳥取県鳥取市若桜町39 ロゴス文化会館1F　TEL 0857-29-4018

「DOCトリ!」のバックナンバーはこちら▶▶▶

特集1

鳥取大学地域医療学講座開設15年記念企画

What an interesting 地域医療教育！

同講座の **谷口 晋一** 先生、**孫 大輔** 先生 にお伺いしました！

2010年10月に地域医療学講座が開設されて、今年で15年を迎えます。講座の教員は、学問としての「地域医療学」の定義すら曖昧だったところから地域医療の在り方を研究し、教育カリキュラムを一から構築してきました。さらには、鳥取県や地域医療支援センターと連携し、地域枠学生のキャリア形成支援も手がけています。その濃密な教育と手厚いサポートをご紹介し、地域医療の面白さと奥深さをお伝えします！

基礎知識×実践的な学びで地域医療マインドを醸成

地域医療の現場では、患者を疾患ベースで診るのではなく、家族や友人、仕事や趣味、習慣といった生活背景まで、診断・治療を行うことが大切です。地域の行政機関や多職種と連携し、必要な支援につなげたり健康推進活動に取り組んだりと、診療以外の場面で能動的に動くことも求められます。

そこで地域医療学講座（以下、講座）では、〝異文化交流のできる、対話のできる医療者〟の育成を目指して、地域医療を守る志と総合的な診療能力（ジェネラルマインド）を養えるよう、下図の教育カリキュラムを構築、実施しています。

座学で学修する基礎知識はもちろんのこと、臨床現場での実践的な学びにも力を入れています。「地域医療体験実習」では、文化人類学で用いられるエスノグラフィー（＊）の手法を取り入れ、診療の様子を観察して詳細に記録し、そこで感じた疑問を書き出し、さらにその理由を自身で考察することにより〝当たり前〟を疑う目を持つという、ひと味違ったアプローチをしています。

2014年、日野病院に「鳥取大学地域医療総合教育研修センター」が、19年には大山診療所に「鳥取大学家庭医療教育ステーション」が開設され、地域の現場で臨床実習を行えるようになりました。医師の指導・監督のもと学生自身が診療業務を担う「診療参加型」の実習なので、診療の難しさ、やりがいと責任、多職種連携の大切さを生で実感し、多くの学びと経験を得ます。

自信を持って羽ばたけるよう地域枠学生を全力サポート

また、地域枠学生に対するサポートにも積極的に取り組んでいます。地域枠の制度説明、若手医師によるキャリア講演会などを開催し、学修・進路、キャリア形成に関する悩みや疑問の解消などに努めるとともに、在学中から縦・横の人のつながりが深まるようなイベントを実施しています。

新たな取り組みとして、21年より、地域枠学生に身に付けてほしい総合的な能力「7つのコンピテンシー」を設定しました。課外教育カリキュラムに参加し、1つのコンピテンシーに対する振り返りレポートを提出することでバッジが1つ取得できます。1年に1本以上はレポート提出するよう義務付けており、6年間で7つの取得を目指すものです。

講座の教員陣が〝2040年の未来〟をイメージしてビジョンを語り合い構成した項目は、新たな気付きを与えるものばかり。これらを意識して振り返りをすることで、地域医療で活躍するために必要な見方・考え方が身に付きます。始まって数年ですが、年を追うごとに学生の主体性が上がっており、今年2月にはついに7つ全てを修得した学生が現れました。

医師として地域へ赴くときには、こうした学びや経験が生きてきます。様々な教育と支援プランを通して志を育て、自信と誇りを持って地域医療に取り組めるよう後押ししています。

＊エスノグラフィー
特定の民族や集団、社会の生活文化などを深く理解するため、フィールドワークを通して行動観察や聞き取りを行い、記録する手法。

“7つのコンピテンシー” コンプリートしました！

様々な地域枠関連イベントに参加することで、知識やスキルはもちろんのこと、その過程で多様な考え方に触れ、医療に取り組む姿勢、授業だけでは得られない幅広い視野を持つことができました。中でも、大山町名和地区で古民家改修を手伝い、高齢住民の方々と交流したことがいい思い出となっています。

ここで培った力と姿勢を生かし、地域に貢献できる医師を目指してこれからも努力していきます。

医学部医学科6年
（一般貸付枠）
井後（いご） 雅博（まさひろ）さん

コンプリート記念の盾

地域枠学生の7つのコンピテンシー

BC 越境性 Border-Crossing
コミュニティや文化の境界線を自由に超える医師

C 地域志向性 Community-Oriented
地域住民の人生を支える地域の専門医

D 多様性 Diversity
自他の多様な価値観を認め合い協働できる医師

P 患者中心性 Patient-Centered
患者のことを第一に考える医師

B 架橋性 Bridging
専門や世代を超えて人をつなぐ架け橋となれる医師

G グローカル※性 Glocality
鳥取出身に誇りを持つグローカルに活躍できる医師

H 人間性 Humanity
AIに真似できない「あなた」をみる医師

※地球規模の視野で考え、地域で行動すること。

2040年の未来に
地域の現場で活躍できる
医師を目指しましょう！

准教授
孫（そん） 大輔（だいすけ） 先生

鳥取大学の地域医療教育カリキュラムと卒前支援プラン

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
鳥取大学の地域医療教育カリキュラム	基礎医学と共用 ＜地域医療の理解＞		臨床前教育 ＜地域医療に必要な臨床知識＞		臨床教育 ＜地域医療の実践＞	
	●早期体験 ●ボランティア	基礎地域医療学	研究室配属	総合診療～症候学～ / 地域医療体験実習 / 臨床地域医療学	臨床実習Ⅰ	臨床実習Ⅱ

※上記以外にも地域枠学生向けの課外教育カリキュラムを企画・実施しています。

鳥取県の卒前支援プラン
地域医療学講座
地域医療支援センター
臨床研修指定病院協議会
等との共同支援含む

- 知事等表敬訪問
- オンライン病院説明会
- 地域枠総会＋制度説明会
- 面談（講座＋センター＋県）
- 臨床研修ガイダンス
- 地域医療体験研修（サマーセミナー・スプリングセミナー・セミナーの振り返り交流会）
- キャリア講演会
- 広報誌「DOCトリ！」の配布・メールマガジン配信やSNSによる情報発信

やればやるほど
面白さマシマシ！

地域医療の実践的な学び

ひとくくりに「地域」といっても、場所によって生活や環境、文化が全く異なります。だから、医療の在り方も異なるはず。自ら足を運び、五感をフル稼働して現地を知ることから地域医療は始まるのです。その基本的な考え方を大切にした、講座の魅力的な教育の一部をご紹介します。

多職種のチームで現地を調査
暮らしを知り、理解を深める

地区住民の自宅訪問

大山町での地区視診

住民インタビュー

くろさか・だいせん春夏秋冬セミナー

鳥取県西部の日野町黒坂や大山町という自然豊かな中山間地域で一年を通して開催、鳥取大学医学部医学科・保健学科とYMCA米子医療福祉専門学校がコラボレーションし、多職種協働でフィールドワークを行う学びの場です。

四季折々の自然や文化に触れながら、地域を歩いて暮らしを肌で感じる「地区視診」を行ったり、地域のイベントに参加したり。地域医療のリアル、地域で働く楽しさ・奥深さを体感できる上、医療・看護・福祉といった多職種の視点を持ち寄ることで学びがより深まります。

刺激的＆ディープな
体験が待っていますよ

助教
中井（なかい） 翼（つばさ） 先生

クリニック実習での挨拶

観察者として現場を客観視
疑問を気付きに変えて成長

優秀ポートフォリオ賞表彰

地域医療体験実習

実習に来た学生さんと記念撮影

医学科4年次の「地域医療体験実習」は、文化人類学のエスノグラフィーを取り入れ、実際に参加しながら観察を行うことで、地域医療の現場を学びます。地域志向性を促し、自分を客観的に見つめ直すことが狙いです。

まずは事前講義で、医療現場の観察ポイント（人間関係、言葉遣い、ボディーランゲージ、文化など）や観察記録の方法を学びます。実習は、学外（医療・介護施設）と学内を合わせて計4回行われ、それぞれの実習後、eポートフォリオに「観察事実」「生まれた問い」「その問いの背景」を記述します。多くの学生が客観的視点での観察や問いを深めるプロセスを新鮮と感じ、対象を考察する力を養っていきます。

調査・分析の手法を学び、
地域医療の課題研究に挑戦

大山町フィールドワーク

日野病院訪問

日野町フィールドワーク

研究室配属

地域の医療課題に
注目することで、理解が
もっと深まります！

医学科3年次の11月に1カ月間、各研究室に数名ずつ配属され、研究の基礎を学びます。地域医療学講座には毎年、地域枠学生を中心とする4～6名が配属され、地域住民のフレイル調査や中山間地・へき地の医療資源の課題分析などをテーマにフィールドワークを実施しています。

2024年度は、自治体病院・診療所6ヵ所を訪問し、医師へのインタビューと現地調査を通じて医療課題を分析。医師不足問題の背景には人口減少や税収減など多様な要因があり、課題解決には県内病院の連携強化、医学教育の改革、総合的診療能力の普及などが求められる、という提言がなされました。

助教
大塚（おおつか） 裕眞（ゆうま） 先生

海外の医療体制・実践に触れ、
"グローカル"な意識を育てる

産婦人科外来見学

現地の医学生とのディスカッション

へき地の住民自宅訪問

インドネシア総合診療研修

毎年2～3月頃に約1週間、協定校であるインドネシア・ディポネゴロ大学を訪れ、プライマリ・ケアと総合診療を学ぶ国際研修を実施しています。

同国は医師の60～70％が総合診療医として活躍しており、その先進的なアプローチは日本の地域医療にも示唆を与えています。そこで、研修では現地クリニックや保健センターを見学し、その医療体制や臨床実践を深く学びます。また、現地医学生との英語によるディスカッションを通じて、異なる文化や価値観を知り、国際的な視野を広げます。英語でのコミュニケーション力が向上するので、将来のグローバルな医療活動への備えにもなっています。

総合診療などに関心が
あれば何年生でもOK
ぜひトライして！

助教
三原（みはら） 周（しゅう） 先生

一歩先行く
頼れる先輩

地域医療学講座の 教員紹介

地域医療学講座には現在6名の教員がいます。その中のお二人から、学生の皆さんへメッセージを頂きました。講座の教員は皆、それぞれ違う道のりを経て今にたどり着いた地域医療の先輩でもあります。疑問や悩みがあれば遠慮なくご相談ください！

助教
三原（みはら） 周（しゅう） 先生
出身／島根県松江市

2016年　自治医科大学医学部 卒業
2016年　鳥取県立中央病院 臨床研修医
2018年　鳥取県立中央病院 総合内科
2019年　国民健康保険智頭病院 内科
2021年　鳥取大学医学部附属病院 感染症内科
2022年　大山町国民健康保険名和診療所 所長
2024年　鳥取市佐治町国民健康保険診療所 医科医長
2025年　鳥取大学医学部地域医療学講座

地域勤務を経て、内科と総合診療のダブルボードに挑戦中です！

私は倉吉市で学生時代を過ごし、大学卒業後は一般的な自治医大生と同様に、診療所を含む自治体の病院で地域医療に従事してきました。地域医療従事期間終了後は、地域医療学講座で教育・研究・診療・地域活動を行っています。

地域医療従事期間中に取得した内科専門医に加え、現在はダブルボードとして総合診療専門医取得を目指し、研修しています。

これから医学部を目指す受験生の皆さんは疲れがたまってくる時期かもしれませんが、体に気を付けて、毎日のリズムを崩さないよう頑張ってください。将来医療に携わる医学生の皆さんは、患者さんの話を聞き不安を取り除ける医師、感性やコミュニケーション力、豊かさみたいなものにも気を配れる医師を目指して頑張ってください。

血液内科から地域医療へ専門を生かしつつ、地域に必要な医療を追究

私は島根県松江市で生まれ育ち、鳥取大学医学部で学び、山陰地方で医師としてのキャリアを歩んできました。都市部と比べて医療資源が限られる中山間地域では、様々な職種の医療スタッフの存在が地域の暮らしそのものを支えています。地域医療教育を通じて、学生の皆さんと“その地域に必要な医療とは何か”を一緒に考え続けていきたいです。

血液内科医として勤務した後に地域医療に携わっていますが、どの専門科を選んでも、地域の医療機関で学べるスキルや考え方は自らの引き出しを増やすことにつながると思います。鳥取県には地域医療を学ぶヒントがたくさんあるので、ぜひ自分の成長にうまく生かしてほしいと願っています。

助教
今岡（いまおか） 慎太郎（しんたろう） 先生
出身／島根県松江市

2011年　鳥取大学医学部医学科 卒業
2011年　松江赤十字病院 臨床研修医
2013年　松江赤十字病院 血液内科
2020年　鳥取大学医学部地域医療学講座

15年のあゆみで大きく発展した地域医療教育
豊かな思考で動ける医師を育成したい

基礎知識から臨床実践まで教育体系を一から構築

この15年間で地域医療教育カリキュラムの大枠が整い、年を追うごとに内容が充実してきました。特に日野郡日野町の日野病院、西伯郡大山町にある大山診療所が地域医療のサテライトセンターとして、臨床実習の拠点となったことは大きな成果でした。実践を通して〝病気ではなく人を診る〟ことの意味と大切さ、診断の難しさ、そして中山間地の課題を直に感じることができる場は本当に貴重です。

2022年9月には『地域医療学ハンドブック』を発刊しました。私は、講座の初代教授として、当時はとても曖昧だった「地域医療学」を「Community-based family medicine」（コミュニティに根差した家庭医療学）と定義し、欧米のプライマリ・ケアや家庭医療学をベースに、日本の地域コミュニティに合った診療と研究、教育方法をこつこつと構築していきました。

しかし海外の教科書を見ても、そもそも日本とは医療制度が異なるのでしっくりきません。日本の独自性が反映されたテキストが欲しいと考え、地域医療に関わる医師たちと話し合いながら作成したのがこのハンドブックです。地域医療学の入門書として、「臨床地域医療学」などの授業でテキストとして使用しています。

また、動画チャンネルを開設し、学生向けのコンテンツをアップして教育に活用しています。住民向けの健康啓発動画も上げており、最近は、もっと楽しく視聴できるものにしようとドラマ仕立ての番組を制作し、私たちの名演技が大好評で、診察室に入ってきた患者さんが「先生、見ましたよ」と声をかけてくださいます。そこから話がはずむので、診察の良いきっかけになっています。

地域医療について
詳しく学べる
一冊です！

総合診療専門医を育成 仲間を増やし、未来を紡ぐ

2018年に新専門医制度が始まり、19番目の基本領域として「総合診療」が新たに加わりました。翌年、講座では「鳥取の総合診療専門医を育てるプログラム」をスタートさせ、これまでに3名の専門医が誕生しました。現在も4名が研修中です。まだ少人数ですが、興味を持つ方が徐々に増えているのは確かです。第1世代が指導的立場になり、その経験を後進に伝えてくれているので、歯車が回り始めていることを実感しています。

少子高齢化、人口流出、担い手不足、経済の衰退など、地域が抱える課題は深刻化する一方。ですから、住民と協力して医療とまちづくりを一緒にやっていくような人材を育てたいと考えています。総合診療医ばかりではなく、内科医でも外科医でも、総合的に動ける医師であれば地域医療に貢献できます。時代の変化を捉え、地域や学生のニーズにアンテナを張り、私たちはこれからも新しい発想と積極的な実践で教育・支援を展開していきたいと思います。

教授
谷口（たにぐち） 晋一（しんいち） 先生

＼魅力が詰まった動画がたくさん！／
地域医療学講座
公式YouTubeはこちら！

鳥取県で医師のキャリアを築く！
私のキャリア紹介
～ 専門研修プログラム基本領域別 ～

Vol.3

－精神科・外科編－

専門医・専攻医の先生方が実際にどのように専門研修に取り組まれたか、そして今後のキャリアをどう捉えておられるかを専門研修プログラムの基本領域ごとに、シリーズでご紹介します！

（社医）明和会医療福祉センター
渡辺病院 精神科

植田（うえた） 祐子（ゆうこ）先生

臨時養成枠

選抜方法
鳥取大学医学部医学科
一般選抜（前期日程）地域枠

鳥取県鳥取市生まれ。2021年3月、鳥取大学医学部医学科卒業。

専門研修を振り返って

学生時代の臨床実習で予診（診療前に症状の訴えや既往症をあらかじめ問診すること）にとてもやりがいを感じました。その先の診察も自分でできるようになりたいと思い、鳥取大学医学部附属病院精神科の専門研修を選択しました。

精神科の専門研修期間は3年間で、松江赤十字病院、鳥取大学医学部附属病院、渡辺病院で1年間ずつ勤務しています。

3次救急を担う総合病院、先進的な医療を行う大学病院、地域に密着し精神科に特化した病院と、3年間で幅広い精神医療を経験することができ、大変充実しています。

今後の抱負

サブスペシャルティ（＊）の幅が広く迷っていますが、まずは小児から高齢者までしっかり対応できる精神科医を目指します。

精神科疾患は一生の付き合いになるものが多いです。長く地域で働き、患者さんの人生に伴走するような医師になりたいです。

＊サブスペシャルティ
基本領域の専門医を取得した後に目指す、より専門性の高い分野。

植田先生のキャリアパス

医師国家試験合格 臨床研修開始
専門研修プログラムへ登録 専門研修開始
（基本領域）精神科専門医試験
今後は サブスペシャルティ領域専門研修検討中

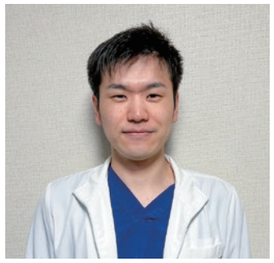
	臨床研修 米子医療センター		精神科専門医研修 鳥大病院：精神科専門医研修プログラム			サブスペシャルティ専門研修・勤務など			
勤務地	米子医療センター	米子医療センター	松江赤十字病院	鳥大病院	渡辺病院				
年度	2021 医師1年目	2022 医師2年目	2023 医師3年目	2024 医師4年目	2025 医師5年目	2026（予定） 医師6年目	2027（予定） 医師7年目	2028（予定） 医師8年目	2029（予定） 医師9年目
地域枠義務	県内限定	県内限定	猶予期間	12カ月	12カ月	48カ月（予定）			

県外医療機関での専門研修に猶予期間を活用

臨時養成枠の卒業後従事要件

●臨床研修：県内に限定
●地域勤務：臨床研修修了後、9年間のうち6年間を県内指定病院で勤務
※2022年度以降の入学生：臨床研修開始後12年間のうち、9年間を県内指定病院で勤務、かつ、うち4年間は知事指定区域での勤務が条件。
※詳細は鳥取県キャリア形成プログラムを参照（https://www.pref.tottori.lg.jp/317209.htm）➡

2030年3月末日 従事要件 達成見込み



鳥取大学医学部附属病院
消化器外科

高橋（たかはし） 朋大（ともひろ）先生

臨時養成枠

選抜方法
鳥取大学医学部医学科
一般選抜（前期日程）地域枠

鳥取県米子市生まれ。2018年3月、鳥取大学医学部医学科卒業。

専門研修を振り返って

学生時代から外科系に興味がありましたが、いわゆる「3K」のイメージが拭えず、ギリギリまで進路を決めかねていました。最終的には、当科の先生方の「絶対に後悔させないから」の言葉を信じ、外科を選択しました。

地方は若手が少なく、専門研修の症例には恵まれています。

医師6年目から大学院の研究のため手術に入る機会は少なくなりましたが、それまでに消化器外科専門医に必要な執刀数は経験できました。

今後の抱負

消化器外科専門医取得と大学院卒業が当面の目標です。消化器外科医として何を極めるかは、今後考えたいと思います。将来に向けては、仕事と家庭を両立できる働き方を実践し、後輩のロールモデルになれるような医師を目指したいです。

高橋先生のキャリアパス

医師国家試験合格 臨床研修開始
専門研修プログラムへ登録 専門研修開始
4月 大学院入学
（基本領域）外科専門医取得
消化器外科専門医試験受験予定
今後は ①消化器外科専門医取得 ②大学院卒業

	臨床研修 鳥大病院：自由選択プログラム		外科専門医研修 鳥大病院：外科専門研修プログラム			サブスペシャルティ専門研修・勤務など			
勤務地	鳥大病院→藤沢市民病院	藤沢市民病院→鳥大病院	鳥取赤十字病院	鳥取赤十字病院	県立厚生病院→鳥大病院	鳥大病院	鳥大病院	鳥大病院	
年度	2018 医師1年目	2019 医師2年目	2020 医師3年目	2021 医師4年目	2022 医師5年目	2023 医師6年目	2024 医師7年目	2025 医師8年目	
地域枠義務	県内限定	県内限定	12カ月	12カ月	12カ月	12カ月	12カ月	12カ月（予定）	

育児のため2週間の有給休暇を取得

臨時養成枠の卒業後従事要件

●臨床研修：県内に限定
●地域勤務：臨床研修修了後、9年間のうち6年間を県内指定病院で勤務
※2022年度以降の入学生：臨床研修開始後12年間のうち、9年間を県内指定病院で勤務、かつ、うち4年間は知事指定区域での勤務が条件。
※詳細は鳥取県キャリア形成プログラムを参照（https://www.pref.tottori.lg.jp/317209.htm）➡

2026年3月末日 従事要件 達成見込み

県内精神科・外科専門研修プログラム紹介

鳥取大学医学部附属病院
精神科専門医研修プログラム
外科専門研修プログラム
お問い合わせ 鳥取大学米子地区事務部総務課専門研修等係
TEL：0859-38-7005
e-mail：senmoni@ml.med.tottori-u.ac.jp

医療福祉センター 倉吉病院
精神科専門医研修プログラム
お問い合わせ （社医）仁厚会医療福祉センター倉吉病院
TEL：0858-26-1011

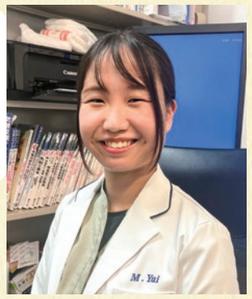
（社医）明和会 医療福祉センター 渡辺病院
精神科専門医研修プログラム
お問い合わせ （社医）明和会医療福祉センター渡辺病院
TEL：0857-24-1151
e-mail：watanabe@mmwc.or.jp

若手医師・医学生REPORT

DOCトリ！のタマゴ

「これから“DOCトリ！”になるぞ」と頑張っている先輩たちに、これまでの歩みや現在の様子を聞いちゃいました！

故郷の課題解決を目指し、次のステップへ



鳥取県立厚生病院
臨床研修2年目

南（みなみ） 優衣（ゆい） 先生

1999年　鳥取県鳥取市生まれ
2024年　鳥取大学医学部医学科 卒業
2024年　鳥取県立厚生病院 臨床研修医

私が鳥取大学医学部の特別養成枠に進学した理由は、高校生の時にいろいろな県の大学オープンキャンパスに参加する中で、「せっかくなら生まれ育った鳥取県で地域医療に貢献したい」と思ったからです。また、高校の授業等を通して地元の医療課題を身近に感じ、「医師として県民の健康を支えたい」と思うようにもなりました。

臨床研修は、コモンディジーズ（出会う頻度の高い疾患・病態）を幅広く経験でき、スタッフ全体の協力的な雰囲気に惹かれた鳥取県立厚生病院を選択し、現在研修医2年目として勤務しています。

将来は内科系に進みたいと思い、2年目の自由ローテート（選択科）は内科を中心に計画し、3カ月間は鳥取大学医学部附属病院にて、当院にはない内科を中心に研修します。

今後は、地域医療に従事する際に必要となる診断力や信頼関係構築のスキルを磨き、鳥取県の医療課題に真摯に向き合っていきたいと思っています。

わたしの鳥取LIFE！

カフェで過ごす癒やしのひととき

休日は、大学同期や高校の同級生と予定を合わせて、ランチに出かけたりお気に入りのカフェでくつろいだりしています。ニューオープンもチェック、少しずつ開拓中です。県中部にはステキなお店がいっぱいあるので、ぜひ訪れてみてください。

遠回りしても諦めず、夢へ向かって前進

鳥取大学
医学部医学科 6年

森原（もりはら） 良和（よしかず） さん

1995年　鳥取県鳥取市生まれ
2014年　八頭高等学校 卒業
2020年　鳥取大学医学部医学科 入学

小児がんを罹患した友人の死をきっかけに、生まれ育った鳥取で医学を学び、地元の医療に少しでも貢献したいと思い、私は医師になることを決意しました。しかし、中学・高校時代、勉強が苦手だった私は、勉強方法の勉強からスタートすることとなり、大学入学までに遠回りしました。

そんな私にとって、鳥取県で勤務することで奨学金の返還が免除される地域枠制度はとても魅力的で、アルバイトに時間を取られることなく学修に専念することができました。おかげで、ストレートで卒業を迎えられます。

魅力的な診療科が多いので、将来のビジョンはまだ明確ではないですが、兄が救急救命士を務めており、救急医療に興味を抱いています。兄が現場から搬送した患者さんを、私が医師として病院の救急診療科で受け入れるというような「救命のリレー」ができればいいなと、選択肢の一つとして思い浮かべています。

わたしの鳥取LIFE！

青山緑水の自然が最高の遊び場！

自然豊かで、山も海も川もあるのが鳥取県の魅力。登山、キャンプ、スノーボード、マリンスポーツ、釣りなど、都会ではなかなかできないアクティビティーが季節ごとに楽しめます。中国地方最高峰の大山登山では、山頂で飲む熱いコーヒーが最高です！

1度は行くべし！

TOTTORI★イチオシ名鑑

Enjoy Tottori life!

地元の魅力を知り尽くす謎の編集部員「SR」が、観光地とグルメを毎号1カ所ずつご紹介します。せっかくの鳥取LIFE、楽しまなきゃ損ですよ！

遊 ＠Western

ほっしょうじおんせん
法勝寺温泉

分け隔てなく誰もが集える“ごちゃまぜ”が楽しい温泉

地域の居場所でもある温泉施設。地下1200mから汲み上げるお湯は、トロリとした弱アルカリ性。岩風呂の「山の湯」、赤御影石の「桜の湯」、檜造りの家族風呂（予約制・60分）の3浴場にはそれぞれ露天風呂があり、その壁にはかつてこの場所にあった法勝寺高校の校歌が刻まれています。歌詞を眺めて往時に思いを巡らせれば、寄せる郷愁に美肌の湯が余計に染み込むようです。

湯上がりの休憩スペースには蕎麦の美味しい食事処が。駄菓子やカプセルトイ、漫画などもあり、キッズも大満足できそう♪

住 西伯郡南部町法勝寺516
☎ 0859-21-0772
営【入　浴】11:00〜21:00（最終受付20:30）
【食事処】11:00〜21:00（食事LO 20:15、ドリンクLO 20:30）
休 第2・4水曜日
¥【入浴料】中学生以上450円、小学生150円、幼児80円
P あり（無料）
JR米子駅から車で約20分

おうちみたいにの〜んびりできるね

食 ＠Middle

魚料理 海（うみ）

▲鳴石丼 1,980円（みそ汁・香物付き）
※季節や仕入れ状況によりご提供できない日があります。事前にご確認ください。

住 東伯郡琴浦町別所267-1
☎ 0858-55-0889
営 10:30〜14:00（LO 13:30）、17:00〜21:00（LO 20:30）
休 木曜日
P あり（無料）
JR八橋駅から車で約2分

モサエビの旬 9〜5月頃を目指して訪れてね！

まるで“海”を食べているよう利益度外視のてんこ盛り丼

目前の赤碕港、境港で水揚げされた日本海の幸が美味しいと評判の魚料理店で、地元の観光スポット「鳴り石の浜」をグルメで応援しているのがこの丼。

主役は、ムチムチ食感&トロリとした甘さのモサエビ。鮮度劣化が早いため遠方には流通しない“幻のエビ”が8〜10匹も。さらには、ブリ、ハマチ、マグロ、タイ、サケといった季節の魚たちが、1cmはあろうかという分厚さで白飯上を回遊。甘めの特製醤油ダレが絡めてあり、ネタ自体の旨味と相まって絶妙な味わい。食べても食べても幸せが続く感動の一杯です！